

2 博物館実習

大学及び短期大学における博物館学講座の単位習得の一環として、博物館学を履修する学生を一時的に受け入れ、博物館現場における知識及び技能を修得させることにより、人材の育成を図ることを目的として例年実施している。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和2・3年度は募集先を県内大学に限定していたが、感染拡大状況に鑑み本年度は制限を設けず、各校に対し、文化庁企画調整課博物館振興室より各大学宛に出された「新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた学芸員養成課程に係る博物館実習の実施に当たっての留意事項について」に基づき、健康管理に留意することを徹底するよう伝えた上で実施の運びとなった。

(実習担当者：森 万由子)

実施日時と内容

8月22日（月）	9：30～10：00	開講あいさつ・オリエンテーション
	10：00～11：00	館長講話
	11：00～12：00	講座①「美術館と学芸活動」
	13：00～13：30	見学① 館内
	13：30～14：30	見学②「所蔵作品展」
	14：30～15：30	講座②「総務（全般・予算・広報）・施設管理について」
8月23日（火）	15：30～16：00	広報企画実習①（課題説明）
	9：30～10：30	講座③「対話型鑑賞」（講義と実践）
	10：30～11：30	見学③「安野先生のふしぎな学校展」
	11：30～12：00	ギャラリートーク実習①（概論）
8月24日（水）	13：00～16：00	ギャラリートーク実習②（企画立案）
	9：30～10：30	講座④「美術館の展示環境・展示手法」
	10：30～12：00	広報企画実習②（発表・ディスカッション）
	13：00～14：00	作品取扱い実習・調書作成①（日本洋画）
	14：00～15：00	作品取扱い実習・調書作成②（日本画）
	15：00～16：00	ギャラリートーク実習③（集約）
8月25日（木）	9：30～10：30	作品取扱い実習・調書作成③（工芸）
	10：30～12：00	ギャラリートーク実習④（集約）
	13：00～16：00	ギャラリートーク実習⑤（制作）
8月26日（金）	9：30～12：00	ギャラリートーク実習⑥（発表準備）
	13：00～14：30	ギャラリートーク実習⑦（発表）
	14：30～15：00	受講生ディスカッション
	15：00～16：00	振り返り

受講生所属大学

青山学院大学、安田女子大学、県立広島大学、静岡文化芸術大学、佐賀大学、広島大学、和光大学、広島女学院大学、広島市立大学、比治山大学、成城大学（11大学、計14名）

広報企画実習

大学生をターゲットにした、当館所蔵作品展の広報企画の立案を行った。初日にワークシートを配布し、まずは各自で企画案を考えてくることを課題とした。発表・ディスカッションにおいて、受講者は4班に分かれ、各々の案を他の班員と共有し、ブラッシュアップしたのち一つの企画とし班ごとに発表

を行った。駅の工事用仮囲いの活用や、コラボスイーツや学芸員のコメント付きポストカードの作成、作品をイメージした服装のSNSでの発信など、多彩な企画案が提示された。

ギャラリートーク実習

メインカリキュラムでは、所蔵作品展で展示中の作品の中から対象作品を選定し、模擬的なギャラリートークを実施した。受講生は4班に分かれ、グループワークにより、各班で対象者、作品、対象者に合わせたトーク内容、ギャラリートーク全体のテーマを決定。自身が受けた作品の印象や各自の関心を出発点としながら、調査を通じて作品や作者への理解を深め、さらに来館者目線に立った伝え方を検討することで、学芸員の仕事を体験した。各班のテーマ、対象者、作品は次の通り。

①	ちょっと不気味な美術の世界（対象：小学校高学年、中学生、高校生） マックス・エルンスト《博物誌「夫婦のダイヤモンド」》、ルネ・マグリット《人間嫌いだち》、鬚光《花園の虫》、熊倉順吉《曲面のレコード・ラック》
②	光（対象：一般（美術にそこまで詳しくない人）） アレクサンダー・コールダー《ヴァーティカル・ホワイト・フレーム》、吉田博《瀬戸内海集「帆船 朝」》、ジャン（ハンス）・アルプ《目覚め》、名井萬亀《あるいっしゅん》、南薫造《曝書》
③	これ何にみえる？（対象：一般（美術に苦手意識のある人）） 圓錐勝三《タクト》、八木一夫《いつも離陸の角度で》、永田一脩《静物》
④	こんな旅行どうですか？（対象：高齢者） 森口邦彦《友禅訪問着 光波》、舩木倭帆《巴皿》、舩木倭帆《垂描文鉢》、吉田博《瀬戸内海集「帆船 朝」》、吉田博《瀬戸内海集「帆船 午前」》